

いじめ問題での子どもアドボケイトについて

いじめを含む子ども同士の関係性の問題においては、子ども自身がどのように感じ、どのように思ってきたのかということが極めて重要です。子どもの思いを理解することは、子ども自身が大切にされていることを実感し、他者を大切にすることを育むことにもなり、いじめの未然防止につながります。また、いじめ発生後の対応においても、被害を受けた子どもの思いや、加害行為に至った子どもの背景を理解することで、より適切な対応につながられます。子どもアドボケイトは、子どもの意見表明を支援します。

1 子どもアドボケイトとは

アドボケイトとは、「代弁者」と訳されます。子どもが自分の気持ちを伝えられないときに、その子の気持ちを聞き、伝えたいことや伝える方法を一緒に考えてくれる人です。

2 子どもの権利条約の4つの原則

子どもの権利条約は、子どもは「ひとりの人間として人権（権利）をもっている」、つまり「権利の主体」だという考えの条約です。子どもの権利条約の基本的な考え方は、次の4つで表されます。あらゆる子どもの権利の実現を考えるときに合わせて考えることが大切な「原則」としてとされています。



差別の禁止（差別のないこと）

すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況など、どんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。



子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）

子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えます。



生命、生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。



子どもの意見の尊重（子どもが意見のある参加ができること）

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。

出典元：日本ユニセフ協会

3 子どもアドボケイトが大切にしている6つのこと

(1) エンパワメント

あなたの心の力
子ども自身で解決できる
ことを支援

(2) 子ども主導

あなたが決める
子どもの意思を尊重する
支援

(3) 独立性

あなたが主役
子どものためだけを考え
て支援

(4) 守秘

秘密は守ります
子どもの同意なしに話し
たことを誰にも話しません

(5) 平等

みんなを大切にします
すべての子どもはアドボケ
イトの支援を受けられます

(6) 子どもが参加

子ども大人も一緒
子どもの参加を尊重

4 子どもアドボケイトが必要になったら

保護者や担任の先生、養護の先生、スクールカウンセラーなど、身近な大人に子どもアドボケイトが必要であることを伝えてください。